

ドメインA：知識と知的能力

このドメインは、優れた研究を実行できるようになるために必要な知識と知的能力を含んでいる。

サブドメインと項目	第1段階	第2段階	第3段階	第4段階	第5段階
A1 知識基盤					
1. 専門分野の知識	<p>主要な概念、争点、思想史について、少なくとも、核となる知識と基本的な理解がある。</p> <p>自己の研究分野および関連分野における現在の進行状況を把握している。(A3)*</p> <p>知識に対して独自の貢献を目指している。</p> <p>知識創造の国際的側面と非学術的な側面について、幅広く認識を深めている。</p>	<p>自己の専門分野と関連する専門分野に対する徹底した詳しい知識/理解を深め、他の学問/研究分野における関連分野について理解する。</p> <p>自己の研究と現実の世界情勢との関連性を実証する。国際的状況における知識を持つ。</p>		<p>新しい知識を掘り起こす。極めて大きく飛躍する可能性がある。複数の視点を考える。</p> <p>学問/研究分野の戦略的方向性と知的発展、および他の学問/研究分野との相互依存関係に対し、全体的な理解を深める。この知識を利用して自己の専門/研究分野を充実させる。</p> <p>自己の学問/研究分野の完全性と将来の活発性に貢献する。国際的な影響力を行使する。</p>	
2. 研究方法—理論的知識	<p>自己の研究分野において、関連する研究方法論と研究技術、およびこれらの適切な応用を理解している。(A4)*</p> <p>自己の研究で使用している原則と実験テクニックを証明する。(B6)*</p>	<p>情報/データの収集と分析についてさまざまな基準や方法/テクニックの価値を評価する。特定の問題/疑問と関連して情報/データの有効性と妥当性を検証する。</p>	<p>柔軟で積極的な方法での調査に特化した方法/テクニックを組み合わせさせて証明する。</p>	<p>代替の研究パラダイムの価値を認識し、学際的な研究を行うことができ、また、学際的な研究を行っている他者を支援することができる。</p>	
3. 研究方法—実際の応用	<p>研究分野に関連するさまざまな研究方法を用い、自己の活動を文書化する。</p> <p>自己の専門分野で成長している能力を示し、別の研究方法と分析テクニックに対する意識を高めている。</p>	<p>自信を持って、研究アプローチを開発し、あらゆる適切な方法とテクニックを応用する。</p> <p>研究プロセスを文書化し、適切な統計を使用して評価する。</p>	<p>研究計画、情報/データ収集、情報/データ管理、分析、手法/テクニックについて、これらの適切な選択と使用を他者に教育・指導する。</p>	<p>新しいモデル、仮説、研究計画、データ収集、分析テクニックを創造する。</p> <p>手法の応用で期待される事柄を、局所的、国内的・国際的に設定する。</p>	
4. 情報探索	<p>探索・発見のスキルとテクニックを獲得し発展させる。</p> <p>適切な書誌資源、アーカイブ、その他の関連情報源（ウェブベースの情報源、一次資料、レポジトリなど）を特定し検討する。</p> <p>現在使用しているさまざまなツールやテクニックを最大限に活用する。</p> <p>ソースの信頼性、評判、流通性、権限、関連性を評価する。</p> <p>別の見解を検討するために、関連するグループにフィードバックを求める。</p>	<p>さまざまな情報ソフトウェア、情報源、情報テクニックを使用して高度な検索を行い、使用対象物の利点と限界を見極める。</p> <p>計量書誌学と引用の重要性を認識している。</p>	<p>適切な研究資源に対し、非常に成熟した認識を示す。</p> <p>さまざまな専門書籍やオンラインの専門的情報源を適宜使用する。</p> <p>計量書誌学と引用を、高レベルの技能で最大限に利用する。情報/データの検索・評価・検証テクニックについて、他者を教育する。</p>		

5. 情報リテラシーと情報管理	<p>情報技術（ワードプロセッシング、スプレッドシート、シミュレーションシステム、データベースなど）を適切に使用して、情報を獲得・収集するためのシステムを計画して実行する。(C2, C4)* 情報/データのセキュリティ問題と寿命問題に対する意識を高める。 情報/データの管理者、公文書保管人、図書館司書などから専門的アドバイスを得られる場所を認識 専門用語など、用語に関する高度な知識を研究に活かす。</p>	<p>情報/データの作成・整理・検証・共有・保存・キュレーションと、関連リスクに対する意識を高める。 情報/データ管理に関する法的要件、倫理的要件、セキュリティ要件を、特に経時的に理解する。 メタデータの目的に関する知識を持つ。</p>	<p>学問・研究分野に特化した情報/データの管理、データセキュリティ、法的要件、倫理的要件に関して、同僚、経験の浅い研究者、学生、スタッフにアドバイスを与えて教育する。</p>	<p>新しい情報管理テクニックを開発する。 情報/データの収集・分析・保全の計画と使用について、遅れずについていき、かつ傾向を予測する。</p>
6. 言語		<p>専門用語など、研究やキャリア開発に適した付加的な用語を習得する。</p>	<p>関連する付加的な用語に精通する。</p>	
7. 学術的な読み書きと計算の能力	<p>学術的な背景において、適切に理解・解釈・創造・コミュニケーションを行う能力がある。文法と構文が正しい内容のプレゼンテーションを作成する。 専門家の聴衆にも専門家でない聴衆に対しても、目的(E1)*と文脈に適したスタイルで文章を書く。 自己の学問/研究分野の研究を開始できるだけの数学的能力を備えている。その分野で使用する可能性のある統計を理解し応用する。 データを分析して適切なコンピュータパッケージを使用する。 情報とデジタル技術を活用可能な</p>	<p>学術的な読み書きの能力を継続して養う。さまざまなコミュニケーションメディアに関する読み書きの要件を理解する。 ITとデジタル技術における実務能力を伸ばす。 複雑なアイデアを明確に示す。 関連する学問/研究分野における分析手順または統計手順を理解し、数学的能力を継続的に養う。</p>	<p>さまざまな文脈とコミュニケーションメディアについて高レベルの学術的な読み書きと計算の能力がある。 学問/研究分野には、ITと数学に関する最新のツール、テクニック、手順を使用する。 必要に応じて、学術的な読み書きと計算の能力に関する技術について、他者への教育、アドバイス、指導を行う。</p>	

A2 認知的能力

1. 分析能力	<p>自己の所見や他者の所見を批判的に分析・評価する。(A5)* 他者のデータセットを検証する。</p>	<p>さまざまな方法に関する知識を含む、充実した分析能力がある。新しい分析能力の習得に前向きである。 経験の浅い研究者やスタッフに分析に対する理解を深めさせる。</p>	<p>優れた分析能力がある。</p>	
2. 統合能力	<p>自己の研究と従来の研究との関連性を把握している。情報/データとアイデアを統合したガイダンスを役立てている。</p>	<p>多様なソースから新しい複合的な情報をしっかりと統合する。* 自己の学問/研究分野におけるパターンや関連性を認識している。</p>		
3. 批判的思考	<p>(口頭・文章での)議論を理解して自己の仮説を明確にすることができ、独自の批判的思考法を構築している。 問題を認識し検証する能力がある。(A1)* 複数の知識獲得方法と代替パラダイムを認識している。</p>	<p>意味のある重要な議論を認識し、他者の仮説を評価できる。 自立的で批判的な独自思考を持つことができ、理論上の概念を生み出す能力がある。(A2)* 証拠に基づいて現実的な正しい判断を下す。</p>	<p>批判的思考能力の応用に習熟しており自信を持っている。 経験の少ない研究者や同僚の批判的思考を刺激する。</p>	<p>創造性に満ちた批判的思考を持っており、国内外で認められている。 学問/研究分野と方針レベルにおいて批判的思考を刺激する。</p>

4. 評価能力	進捗状況をまとめ、文書化し、報告を行い、反映させる。(A6)* 自己の研究活動の影響と成果を評価する。 研究の一次および二次情報/データの質、整合性、信憑性を評価する。 建設的な批判を受け入れたり与えたりする。	同僚の研究活動の進捗、影響、成果を評価する。 一次および二次情報/データの質、整合性、信憑性、妥当性について、経験の浅い研究者にアドバイスを与え指導する。 適切なタイミングで建設的な批判を与えたり受け入れたりすることができる。	他の研究者の様々な活動の進捗、影響、成果を観察し評価する。 難しい批判に効果的に取り組む。	評価プロセスを作り、国内外の組織および/またはプロジェクトの進捗、影響、成果を評価する。
5. 問題解決能力	自己の研究の基本的テーマを区分し、研究に関する基本的な疑問と仮説を考案する。	研究に関するさまざまな疑問に対して解決策を考案し適用して、研究結果を効果的に分析し解釈する。	新しい傾向、複雑な疑問、広範な問題を特定し、実質的なプロジェクトを計画する。 特定の仮説に取り組み、それを結果の観点から精緻化する。	解明に大きく貢献することで研究事項を導く。 関連する問題を提起し、従来型の思考に一般的な形で取り組んで研究テーマを進めるプロジェクトを計画する。

A3 創造性

1. 探究心	知識習得に対する意欲と能力を明示する。(D1)* 柔軟性と寛容性を明示する。 (D3)* 問題提起のスタイルとテクニックを構築する。	有益な課題を特定して提起し、常に好奇心を持っている。	当面の課題の先にある未踏の分野を考える。 自信を持って、調査し、挑戦し、疑問を投げかける。最先端の問題を予測する。挑戦を奨励し、好奇心を刺激する。	最先端の課題を予測する。挑戦を奨励し、好奇心を刺激する。
2. 知的洞察力	アイデアを吸収して使用しており、知的洞察力がある。 情報を調査/探索することでアイデアと機会を創出する。	新しい動向を認識しており、洞察力があり、当然のこと以上をする。 知的立場に対する自己の概念的なアプローチ/解釈を構築する。 自発性を示し独立して作業する。 (D7)*	学問/研究分野の進捗状況と、知的事項に対するある程度の影響を特定する。自主的に自信を持って自己の水平思考を共有する。	以前は無関係であった課題に関連する問題を提起し、従来型の思考に一般的な形で取り組んで研究分野に戦略的に落とし込む。 学問/研究分野の優れた画期的な考え方を提供し、他の学問/研究分野に知的事項に影響を与え刺激する。
3. イノベーション	研究におけるイノベーションと独創性の役割を理解している。 *(D2) 各種学問分野の合同研究に従事している場合がある。	批判的な判断と考え方を発揮して、新しい/独創的な解釈法を創出する。 あるテーマに対する新しい取り組み方を考案しており、革新的なアイデアを持っている。 成功する可能性の高いアイデアを特定する。	認識を超えて、アイデアの可能性を実現する。革新的な研究プロジェクトを推進し提供する。 他者を励まし、刺激を与え、他者と協働する。学際的研究のために共同研究を模索する。	先を見通しており、従来の見解に挑戦する。
4. 立論能力	研究成果を建設的に擁護する。 (E3)* アイデアを支持して証拠を提示する。 議論を明確かつ簡潔に構築する。	議論の構築と証拠の提示が正確である。 説得力のある議論を提示して研究論文を擁護する。	完璧に仕上げた議論を早急に提示する。 議論の構築について他者を教育し、アドバイスを与え、指導する。	
5. 知的リスク	限界を試し、自発的に、批判的な聴衆に対してアイデアをさらけ出したり、他の研究を批判的に評価したりする。	学問/研究分野内の現状の考え方に挑戦する。		先駆的であり、適度に知的リスクを負う。

ドメインB：個人の能力

このドメインは、専門的能力の開発の主導と管理に必要な、個人の資質・キャリア・自己管理能力を含んでいる。

サブドメインと項目	第1段階	第2段階	第3段階	第4段階	第5段階
B1 個人の資質					
1. 熱意	自己の研究に対する熱意と意欲を維持している。自己の仕事に対する情熱とプライドの必要性を認識している。平凡な仕事であっても意欲が高い。		研究に情熱を傾け、他者に強い興味を持ち、自己の専門/研究分野に対する熱意を奮い立たせる。		国際的な研究者のコミュニティに刺激を与える。
2. 忍耐力	自己鍛錬、意欲、仕事への徹底を示している。(D5)* 障害や妨害に直面しても、同僚、監督者、リーダーからの支援を得る。回復力を養っている。 研究のありふれた側面に効果的に取り組む。		困難に耐えつつ他者を支援する。 立ち直りが早い。	忍耐強く、他者の先を行く。	障害や課題に果敢に取り組んで刺激を受ける。
3. 誠実性	慣例や学問/研究分野における研究の実施基準を理解し明示している。(B3)* 必要に応じて指導を求める。	専門家としての完全性と誠実性をもって行動し、情報/データの取り扱いや普及、他者との関与を慎重に行う。 指導を必要としない研究実施基準を明示して、専門家としての他者の完全性を鼓舞する。	同僚や経験の浅いスタッフメンバーに対し、手本として行動し、アドバイスを与え、彼らの見解を尊重して効果的に議論する。	行動において期待される事柄と基準を設定する。 あらゆるスタッフにアドバイスをし、研究機関および専門分野の方針/実務に貢献する。	HE部門、職能団体、専門研究機関における研究の実践方針と実践手順を具体化する。
4. 自信	個人の能力と意欲を自覚し明示している。 自己の知識、技能、専門性の限界を認識し、必要に応じて支援源を活用する。(D6)*	自己の技能の範囲を自覚し、それを積極的に明示している。 同僚と他者から合理的な課題を突き付けられてもアイデアを擁護できる。 自立的であり、(D7)* 他者を指示する能力がある。	大きな課題に直面しても自己の技能とアイデアに自信を持ち、挑戦を求める。 広範囲にわたるさまざまな支援構造を構築する。 他者の支援に貢献しており、同僚間の関係の必要性を認識している。	自己のアイデアが急進的/独特である可能性が高いことに満足しており、挑戦することによって他者と連携できる自信がある。 広範囲にわたる支援構造を維持している。 他者に信頼を寄せている。	新しい/独自の/急進的なアイデアに対して高度な課題を追求する。 信頼に満ちた他者の態度を引き出す。
5. 内省	時間を作って実践と経験を反省する。 強みを引き出し、弱みを改善する。 個人的なフィードバックを求める。失敗から学ぶ。	自己の強みと弱みをしっかりと自覚している。 優秀であるべく努力し、個人の実績に関するフィードバックを求めて収集し、それに基づいて行動する。	自己の実績と、経験の浅い研究者および/またはチーム/学科/研究機関の実績を改善する方法を継続的に追求する。 他者に内省を促す。 模範を示して指導する。		
6. 責任感	自己のプロジェクトと自己の満足度に対し、徐々に全責任を負い、自立性を伸ばす。	自己と他者（学生や経験の浅い同僚など）のプロジェクトに対して責任を負う。 責任を持って権限を委譲する。 他者の満足度に気を配る。	研究チームの構築/指導とチームメンバーの育成に対する責任を受け入れて負担する。 他の研究者/そのチームの満足度の向上に努め、これを促進する。	高度に熟練した研究者を学術的職業や非学術的職業に従事させることについて、主要な責任がある。学問/研究分野を国内外に伝える責任がある。 研究者である同僚と研究者でない同僚の満足度の向上に努め、これを促進する。	
B2 自己管理					

1. 準備と優先順位付け	プロジェクトを準備・企画して目標を達成し、支援を得て、必要に応じて順応できる。	プロジェクトを戦略的にとらえ、優先順位を定め、計画を立て、前向きな考えを持ち、不測の事態に対応する。	研究の将来的な方向性と傾向を予想し、不測の事態に備える。良いアイデアを認識する。プロジェクト計画の矛盾や機会を把握し、必要な変更を見極める。	変化や不測の事態に対し、効果的かつ適切に計画を立て、バランスをとり、対応する。優先順位の変更の必要性に対する裏付けを提示する。複数のプロジェクト/タスク間の焦点に優先順位を付けて順序を入れ替える。環境に影響を与え、戦略的な長期ビジョンを持つ。
2. 研究への献身	最初のプロジェクトに全力を注いで完結させ、研究に必要な資質を確立する。	注意散漫の可能性を検討し管理する。献身的であり、自己の研究と研究に必要な資質の発展に対し、目的を持って決然と集中する。	研究の優秀さを引き出すことに目的を持って決然と集中し、平凡な研究から非凡な研究に持っていく。	感動を与える研究財産を残す覚悟がある。
3. 時間管理	時間を有効に使って研究プロジェクトを完結し、明確な計画を着実に実行する。	自己の時間を管理するシステムを構築しており、プロジェクトを計画通りに実行し、柔軟に対応する。	自己の時間を管理する能力を確立しており、他者にアドバイスを与え、他者の模範として行動する。複数のプロジェクトまたは複合プロジェクトを計画通りに進め、制約のバランスを取る。	
4. 変化への対応	必要に応じてアプローチを適応させる。指導を求めてリスクを認識する。	変化に順応する。リスクと機会のバランスを取る。アドバイスと安心を追求する時期が分かっている。	変化に関与する。変化を予測してそれに備え、その予測に応じてリスクを管理する。経験の少ない研究者にアドバイスを与えて安心させる。	変化を活用し、リスクを予測する。決然と対応し、他者を指導して安心させる。変化を促し、組織変更のイニシアチブに貢献する。自発的に風評リスクを負う。
5. ワークライフバランス	ワークライフバランス問題に対する意識を高めている。プレッシャーにさらされないようにして個人の満足度を強化する必要がある場合には、支援源とアドバイスを利用する。他者のニーズを考慮する。	受け入れられるワークライフバランスを維持し、プレッシャーを管理する。同僚と経験の浅い研究者に対するプレッシャーに気づき、管理できるよう支援する。	ワークライフバランス問題に対する注目度を積極的に維持する。自分自身とチームにとっての効果的なワークライフバランスを促進する。同僚、学生、スタッフにかかるプレッシャーとストレスの兆候を察知する。必要に応じて支援し、アドバイスを与え、対応を指導する。学科や研究機関の方針、学問分野の方針を利用して、ワークライフバランスと満足度に働きかける。	

1. キャリアマネジメント	<p>自己のキャリア発達を自覚して管理し、現実的で達成可能なキャリア目標を設定して、雇用適性を向上する方法を考案する。(G2)* 効果的な履歴書と応募と面接を通じて、自己のスキルと個人的特性と経験を表現する。(G4)* キャリアネットワークの確立を開始する。</p>	<p>信頼性の高いキャリアプランを立案する。** 経験についてじっくり考え自己改善を繰り返し追求する。** 適切な専門家にアドバイスを指導や指示を求める。 雇用機会を促進する可能性のあるネットワークや関係を開始し維持する。</p>	<p>キャリア軌跡を構築中である。ネットワークや指導機会を利用して自己のキャリアを管理する。 経験の浅い研究者やスタッフを積極的に育成する。特定の学術的活動について他者を指導する。 ネットワークを使用して他者の雇用適性を強化する。</p>	<p>地位を確立した研究者である。キャリアの勢いを維持する。キャリアネットワークを拡張し管理する。 模範として行動する。他者のために機会を生み出し、研究者のキャリアを育成する。</p>	<p>優れたキャリアを持つ模範的人物である。他者の手本であり他者に刺激を与える。 後継者の育成に関与する。</p>
2. 継続的な能力開発	<p>自己認識と、自己の開発ニーズを特定する能力を明示する。(D4)* 継続的な能力開発に対する必要性を高く評価し、関心を示す。(G1)* 自己の経験の伝達性を認識し、それを将来は雇用主またはライン管理者になる人々に明確に伝える。 自己の成果と経験の記録を作成し維持する。</p>	<p>雇用主の要求事項を十分に理解し、それに応じてスキルを開発する。 スキル強化の機会を積極的に求め、研究環境内で公式・非公式にかかわらず責任を負う。 成果と経験のポートフォリオを維持する。</p>	<p>学術的または非学術的な労働市場における自己の将来性を現実的にとらえ、キャリア開発計画を適切に調整する。 他者の継続的な能力開発を支援し促進する。雇用主の要求事項の観点から、他者が十分な情報を得た上で決断するのを支援する。 スキルについてよく考え、さらに開発を進める機会を生み出す。さまざまな状況を考慮した独創力と適性を、証拠を用いて明示する。</p>	<p>継続的な能力開発を行っている模範的な人物として他者に接する。 プロの研究者に必要なスキルを明確にするために行う基準の設定と判断基準の考案に影響を持つ。 自己の研究機関と学問/研究分野における継続的発展の文化に貢献する。 学問分野/研究分野/学科/研究機関の方針に影響を与える事柄、および同僚や経験の浅い研究者の能力開発に関して、情報とフィードバックを積極的に獲得する。</p>	
3. 機会への機敏な対応	<p>研究スキルの性質で他の作業環境に譲渡できるものと、学術研究機関の内外におけるさまざまなキャリア機会に関する洞察を明示する。(G3)* 学術研究機関の内外における広範な雇用機会と能力開発の機会（就労経験やインターンシップなど）を理解し活用する。</p>	<p>雇用適性強化の適切な機会を追求し、国際的経験を養う。学術研究機関外の職位を含む就職活動に対して現実的で成熟したアプローチを行う。</p>	<p>学術研究機関の内外で自己のキャリアを開発できる機会を認識・創造し、自信を持って対応する。 学術関係の労働市場の複雑さを理解する。他者に対して効果的に、かつ慎重な方法でアドバイスできる。 学術研究機関の内外で、他者に積極的に機会を創造し擁護する。異なる学問/研究分野にまたがった非学術的組織との共同研究を行う機会に対応している。</p>		
4. 人脈作り	<p>研究機関と広範な研究コミュニティ内で、共同のネットワークと、監督者・同僚・同業者との仕事上の関係を構築し維持する。(F1)* フィードバックとアドバイスと仕事に対する批判的評価に関して、個人的および/またはオンラインのネットワークを効果的に使用し、機会に対応する。 学会と公共団体に関与する。</p>	<p>経験の浅い研究者/学生と外部ネットワークを共有する。 プロとしての信頼関係を築く。学会で評価の高いメンバーとなる。</p>	<p>ネットワークを先導する。 学術的・非学術的な団体や組織とつながる方針決定ネットワークを、国内外に、さらに官民による研究・開発分野に持っている。</p>	<p>重要な研究機関や組織と影響力のある人脈がある。学術的・非学術的研究機関や組織を通じて社会に大きな影響を与える。</p>	
5. 名声と人望	<p>自己のテーマについて精通している人と話をする。 優れた研究者として認知され始める。</p>	<p>自己の研究分野に関する討論において立場を維持する。 専門テーマ/研究分野において、局所的に評判を確立している。</p>	<p>自己の学問/研究分野や、おそらく他の専門研究分野についても、評判が確立され高まっている。研究に対する評価が高まっている。 内部で相互評価を行い、プロジェクトと専門誌の評論者として行動する。 経験の浅い研究者に対する評価の開発を支援する。</p>	<p>自己の重要なテーマと関連分野に関して、国内と海外の一部では有名な第一人者であり講演者である。 外部の教授陣に対して評論者として行動する。 学科/チーム、同僚、同業者、経験の浅い研究者の評判や評価を積極的に促進する。</p>	<p>世界的に有名である。自己の重要なテーマと関連分野に関して、国際的な権力者であり先駆的な講演者である。 学問/研究分野と自己の所属研究機関に対する評判を積極的に擁護する。</p>

ドメインC：研究の管理運営

このドメインは、効果的な研究管理に必要な規範、要件及び職業上の行為に関する知識を含んでいる。

サブドメインと項目	第1段階	第2段階	第3段階	第4段階	第5段階
C1 専門家としての行動					
1. 健康と安全	関連する健康・安全問題を理解し、責任ある労働慣行を明示する。(B4)* 自己の職場空間に責任を持つ。他者と広範な環境への影響を意識する。	健康・安全に関する規則とガイドランスの重要性と妥当性を認識する。事例を設定し、同僚や経験の浅い研究者/学生に教育やアドバイスをできる。 所属する職場環境とそこで働く人員に対して責任を負う。	健康と安全について、期待される事柄を設定し、同僚や経験の浅い研究者に対して教育、訓練、指導を行う。 学科内の健康と安全を管理し、責任を負う。	健康・安全面での問題に関して学科/現場において期待される事柄を決める。学生とスタッフに教育、訓練、指導を行い、規則を守らせる。研究機関の方針を決定し、かつ/もしくは国の政策に対するアイデアに貢献する。	自己の所属研究機関、国内または海外の職能団体/専門機関の方針と手順を具体化する。
2. 倫理・原則・持続性	関連する実施規則および研究の倫理的实施に関するガイドラインを理解し適用する。監督者に助言を求める。 他の研究者の権利に関する問題、研究テーマの権利に関する問題、研究の影響を受ける可能性のある他者の権利に関する問題への認識を明示する。(B2)* 環境に与える自己の影響に配慮する。持続可能な方法での行動方法と作業方法を理解する。 企業の社会的責任の概念を理解する。必要に応じて指示を求める。	仕事に関して自己の倫理的判断を下し、経験の浅い研究者や学生にアドバイスする。他者の潜在的または実際の非倫理的言動をたしなめる。 責任ある方法で行動・作業し、持続可能な環境を創出する。	期待される事柄を設定し、倫理原則が自己の研究環境内で確実に守られていることを確認する。同僚や経験の浅いスタッフを教育し、助言する。 手本として行動し、環境問題に関して同僚やスタッフに助言する。 経験の浅い研究者の間で研究に対する持続可能な姿勢を奨励する。	学問/研究分野の適切で倫理的な実施を定める。方針決定者に助言する。 現場の環境方針を運用し、同僚/学科の間で研究に対する持続可能なアプローチを奨励する。	HE部門と職能団体/専門機関の方針と手順を具体化する。 研究により発生した倫理問題について世間の理解を得られるように促す。
3. 法令の遵守	研究にまつわる法的要件（データ保護法、情報公開法、2010年平等法、これらに相当する北アイルランドの法律など）に対する基本認識がある。	職業の法的義務を理解しており、同僚や経験の浅い研究者に対し、特にデータの所有権とデータ保護法の要求事項に関してアドバイスできる。(B2)*	実地調査において法的枠組みの範囲内で作業することに責任を負う。期待される事柄を設定し、同僚や経験の浅いスタッフにアドバイスする。	スタッフにアドバイスをし、研究機関の方針/実務に貢献する。 学生とスタッフが確実に平等な機会を得て、公平に扱われるようにする。	HE部門と職能団体/専門機関の方針と手順を具体化する。 模範を示して指導する。
4. 知的財産権と著作権	自己の研究に適用されるデータ所有権ルールについての基本認識がある。	著作権、(B2)*IPR、ライセンスに関して、十分な知識があり同僚や経験の浅い研究者にアドバイスできる。 研究者や社会に広く研究の成果を開示する価値を理解する。 研究成果の保管場所、開示、幅広い提供、「クリエイティブ・コモンズ」ライセンスについて管理を行う。	スタッフ/チーム/学科において現場に期待される事柄を設定する。 適切な場合には、知的財産の商業化に関与する。全スタッフにアドバイスをし、研究機関の方針に貢献する。	HE部門と職能団体/専門機関の方針と手順を具体化する。	
5. 他者への配慮と守秘義務	自己の研究の範囲内で、機密性と匿名性についての参加者の権利を尊重する。 同僚を尊重する。	尊重、機密性(B2)*、匿名性について、同僚や経験の浅い研究者にアドバイスする。 他者が同僚を尊重するよう促す。 他者を尊重しない者をたしなめる。	期待される事柄を設定し、同僚や経験の浅いスタッフにアドバイスする	現場方針を指示し、全スタッフに助言を与え、研究機関の方針に貢献する。	HE部門と職能団体/専門機関の方針と手順を具体化する。

6. 引用と共同執筆のルール	<p>帰属の概念(B2)*を理解し、それを常に適切に応用して、寄稿物と共著物を適切に認識する。現場の行動規範に関して助言を求める。</p>	<p>計量書誌学と引用方法について、同僚や経験の浅い研究者にアドバイスする。</p>	<p>期待される事柄を設定し、同僚や経験の浅いスタッフにアドバイスする。</p>	<p>現場方針を指示し、全スタッフに助言を与え、研究機関の方針に貢献する。</p> <p>HE部門と職能団体/専門機関の方針と手順を具体化する。</p>
7. 適切な行動	<p>適切な場合、専門機関と資金提供者に基づいて、その機関内での学術関連の違法行為(B2)*に関する規則を理解・遵守する。</p>	<p>学術関連の違法行為の規則に関して十分な知識があり、同僚や経験の浅い研究者にアドバイスできる。違法行為をたしなめる。</p>	<p>期待される事柄を設定し、同僚や経験の浅いスタッフにアドバイスする。</p>	<p>現場方針を指示し、全スタッフに助言を与え、研究機関の方針に貢献する。</p> <p>違法行為に関する意思決定に関与する。</p> <p>HE部門と職能団体/専門機関の方針と手順を具体化する。</p>

C2 研究管理

1. 研究戦略	<p>自己の研究が研究機関の研究戦略と専門研究分野の戦略的目標にどの程度合致しているかを認識する。研究の幅広い解釈について理解を深める。</p>	<p>専門/研究分野と自己の研究機関に対して、さらには、あらゆる利害関係者・公共部門・事業部門の広範な目的に対しても、確実に研究が貢献するようにする。</p>	<p>さまざまな研究課題を具体化して影響を与える。</p>	
2. プロジェクトの立案と遂行	<p>研究目標と中間的マイルストーンの設定、活動の優先順位の設定を通じて、効果的なプロジェクト管理を利用する。(C1)* 監督者/ライン管理者の同意を得た決定事項に従って行動し、実績を挙げる。</p>	<p>管理可能な研究プロジェクトを独自に定義する。 プロジェクト管理サイクルを理解しており、プロジェクト管理のさまざまなテクニックとツールを利用できる。 研究情報/結果の一般公開と長期保管を考慮する。 問題と対立に対処する。</p>	<p>大規模な研究プロジェクトを定義し、長期的な研究計画を策定する。 さまざまなプロジェクト管理戦略を用いる。 優先順位を明確にする。期待される事柄を設定する。プロジェクトを軌道に乗せる。</p>	<p>複数の研究プロジェクトと、さまざまなプロジェクトに関する研究課題にも事務手続きにも、効果的に対応する。 不評であっても証拠に基づいた適切な決定を下せる。</p>
3. リスク管理	<p>基本的なリスク評価を行い、自己のプロジェクトにおけるリスクに、支援を受けつつ対処できる。対話型の通信技術を使用している場合は、仮想環境におけるリスクを意識する。</p>	<p>自己の研究環境におけるリスクを評価し、その環境にいる他者に対し責任を負う。 経時的な研究情報に対するリスクを意識する。</p>	<p>自己、チーム、他者に関して徹底的なリスク分析を行う。早急にリスクを特定し、自信を持ってそれに対処する。</p>	<p>リスク管理に関する責任を果たす。他者に対して教育と助言を行う。 自己の研究機関のやり方/期待される事柄を決定・指示する。</p> <p>HE部門と職能団体/専門機関のリスク管理に関する方針を具体化する。</p>

C3 財務、資金調達、リソース

1. 収入と資金調達	<p>研究に対する資金援助プロセスと評価プロセスを理解する。(B5)* 自己の研究計画書を作成する。</p>	<p>重要な関連資金源と助成金申請手続き**に関して、幅広い認識と知識がある。自己の機関の収益創出や資金創出の重要性を認識する。 少額の助成金/補助金を申請する必要がある財務管理システムに関する知識がある。 基本帳簿をつけ、差違を調整する。 自己の助成金を管理する。 商業意識を高める。</p>	<p>幅広い経済的背景を意識する。資金調達の複雑さと多様性を理解する。収益創出や資金創出について他者を教育し、助言を与え、指導する。 徐々に金額の高い助成金/補助金を申請し、代替資金源を求める。自己の研究機関に対する収益創出に関与する。 監査時の追跡調査や予算編成に対する、必要な財務管理システムの使用方法に精通している。 研究支援向けの、研究機関および国の財務システムを理解する。 複数の予算を管理する。他者の教育・助言・指導を行う。</p>	<p>HE部門と職能団体/専門機関内の資金調達方針に影響を与える。</p>
2. 財務管理	<p>財務管理の基本原則を理化している。 商業意識がある。</p>	<p>必要な財務管理システムに関する知識がある。 基本帳簿をつけ、差違を調整する。 自己の助成金を管理する。 商業意識を高める。</p>	<p>幅広い経済的背景を意識する。資金調達の複雑さと多様性を理解する。収益創出や資金創出について他者を教育し、助言を与え、指導する。 徐々に金額の高い助成金/補助金を申請し、代替資金源を求める。自己の研究機関に対する収益創出に関与する。 監査時の追跡調査や予算編成に対する、必要な財務管理システムの使用方法に精通している。 研究支援向けの、研究機関および国の財務システムを理解する。 複数の予算を管理する。他者の教育・助言・指導を行う。</p>	<p>HE部門と職能団体/専門機関内の資金調達方針に影響を与える。</p>

3. インフラとリソース

利用可能なリソースを効果的に使用する。
学科または学部の学問体系/職場環境を把握する。

利用可能なリソースを創造的に使用する。有効な人脈を築く。
研究組織の報告メカニズムと用字用語規則、調達に関する準拠法と最良の方法を熟知する。
企業文化と社内で許容される事柄について認識する。社内での自己の役割が及ぼす影響を認める。

部門の企画とリソース管理に貢献する。自己と他者の行動に対する責任を受け入れる。
プロジェクトの範囲に適したリソースを調達し維持する。規模の経済性に留意する。

インフラとリソースの内部使用を推進/指示/に影響を与える。
研究機関の運営と管理に貢献する。研究機関の幹部レベルの委員会の議長を務める。
リソースと適切なインフラの配分について、説得力のある根拠を提示する。

ドメインD：エンゲージメント、影響とインパクト

このドメインは、学術的・社会的・文化的・経済的な環境を感化・影響するために必要な、知識・理解・スキルを含んでいる。

サブドメインと項目	第1段階	第2段階	第3段階	第4段階	第5段階
D1 他との協働					
1. コレジアリティ	他者への配慮を示す。フィードバックを聞き、与え、受け取り、他者への応答を明敏に行う。(F3)*	親しみやすく接し、思いやりを示す。全員が共通認識を持っていることを確認する。	研究機関に関するさまざまな問題を周知徹底させる。立場に関係なく同僚意識を促す。同僚との支援的な相互評価に関与する。	学科/研究機関において、同僚が平等に権利を有するという姿勢の模範となる。知識を伝える。あらゆる職位の同僚にフィードバックを求め、傾聴する。	
2. チームワーク	正式チームや非正式チームで活動し、その成功に貢献する場合、自己の姿勢と他者への影響を理解する。(F2)* 他のチームメンバー（学者ではないメンバーも含む）による貢献に謝意を表す。貢献してくれた人々に感謝する。	チーム環境でのリーダーシップを理解する。チームメンバーの長所を認め、共通目標の達成に向けて効果的に活動する**。 経験の浅い研究者や学生の指導に当たる。 貢献した人々を称賛する。 支援体制と一体感を構築し、目標を達成する。	指揮・管理・権限委譲を公平に行う。 チームメンバーの意思・ニーズ・地位に細やかに配慮する。成功を取めるために善処する。 期待される事柄を遂行し、対立を解決する。 チームメンバーの指導に当たる。 チームメンバーが各自の役割と責任を明確にできるよう支援する。 チームの成果を認める。 共同研究の相手を積極的に探す。	人材を確保し、教育し、持続可能なチームを構築する。人材を開発し、人間関係を促進する。 重要な人材/チームと国際的に協力する。	
3. 人的管理	活動や期限について監督者/ライン管理者と交渉する。	自己の管理スタイルを構築する。 経験の浅い研究者や学生の指揮・管理・育成を細やかに行う。 求められていることがはっきりと分かるように、明確な期待される事柄を述べ、目標を明確にし、現実的な期限を取り決める。 平等性と多様性の問題に関して手本を示す。不適切な態度をたしなめる。 他者に意欲を起こさせ、自信を与える。 他者に意欲を起こさせ、自信を与える。	独自の人事管理を構築している。 優秀な実績には報酬を与え、標準以下の実績には効果的に対処する。 決定事項の根拠と問題の重要性を説明する。 平等性と多様性に関する適切な方針と手順が実行されていることを確認する。 他者に権限を与える。	他者を育成/支援する文化を創り出す。 平等性と多様性に関する方針の実行を確保する。模範を示して指導し、他者に刺激を与え、ビジョンを明らかにする。	
4. 監督	同僚の支援・査定、および学部生の支援・評価に関与する。	同僚や経験の浅い研究者に対して支援とアドバイスを提供する。 共同監督の役割を引き受ける。 自己の監督能力に関するフィードバックを歓迎する。	他者に自主性を養うよう促す。 主管監督者の役を引き受ける。他者が監督能力を養うのを支援する。 監督に関する方針と手順を最新の状態に保つ。 自己の監督能力・テクニックに関するフィードバックを背局的に求める。経験の浅い研究者にフィードバックを与える。		

5. メンタリング	他の研究活動に対する指導・メンタリング・明示に関与している場合に、他者の学習を効果的に支援する。(E5)* メンタリングと、メンタリングを受けられることの重要性を認識する。	メンターとしての能力を育成し、自己のメンタリングを効果的に活用する。 同僚や経験の浅い研究者が会議で発表する場合や、各自の論文または共同論文を作成・出版する場合には、自信を与える。 学生に対してメンターとして行動する。	経験の浅い研究者に対してメンターとして行動する。 指導を受けている人や他の人が機会を見つけて新たな課題に立ち向かうのを手助けする。 他者の潜在性を見出す。人々に権限を与える。 課題を設定すると同時に自信を構築・育成する。自信過剰な人によく対処する。	模範となる。ネットワークを共有する。他者に対して機会を創出する。自己の機関のメンタリング戦略を具体化する。 意思決定とリーダーシップの役割に従事させて、人々の自律性を高める。 才能を育てる。能力の高い研究者を育成する。
6. 影響力とリーダーシップ	討論に参加し、課題を提示する。支援する必要性に対する意識を高める。 現実の事情に対する自己の研究の重要性を認識する。 研究の成果を活用する人との対話に参加するという学術的環境の価値を知り、感化力と影響力を獲得する。	経験の浅い研究者や学生に影響を与え、指導に当たる。 積極的に話を聞き、自信を持って意思疎通する。説得力のある話をする。 研究関係者と利用者に関わり、研究の感化力と影響力を学術的環境内外に広める。 異なるリーダーシップスタイルに対する意識を高める。	その研究機関内の業務の重要な分野に対して責任を負う。 アイデアに関して興奮を引き出す。 他者の貢献を認識・奨励して、それを最大限に活用する。 異なる考え方を奨励するアイデアを提供する。模範として期待される事柄を明言する。 自己のリーダーシップスタイルを構築する。 学術的背景において、経験の浅い研究者を擁護する。 人とリソースとサービスを誘導する場合、公式・非公式に関わらず主導権を発揮し能力を示す。 委員会や外部の関係性に対して影響を与え、リーダーシップを発揮する。	学界にも非学界にも大きい影響力を持つ。強力なアイデアまたは急進的なアイデアを発表し擁護する。 方針決定団体や学術委員会に対して大きな貢献をしていると認識されている。 さまざまなリーダーシップスタイルを活用できる。別のスタイルを導入して機能させる。議論を通して説得する。別のスタイルを決定事項に盛り込む。 自己のスタッフと学科/研究機関の価値を高める。
7. 協働	協働して研究に利益をもたらす価値を意識し、影響力の可能性を最大限に引き出す。 監督者/研究リーダーと協力して研究の成果を挙げる。 自己および隣接の学問/研究分野の範囲内にある関心の一致/不一致を見極める。	自己および隣接の学問/研究分野の範囲内において、さまざまな同僚、研究の関係者や利用者とも協力関係を築き、協力して研究の成果を挙げる。 協力関係および外部との関係について、積極的に参加し貢献する。	協力関係および外部との関係を巧みに利用する。学問/研究分野の発展に貢献する。 複数の異なる学問分野が関わる状況で研究を行う。比較考察を行う。	外部のさまざまな研究機関や団体との協力関係を築く。それを国内外のレベルで巧みに利用する。 国内外を問わず、協力関係および外部との関係の能力を積極的に構築する。学科/研究機関の評判と活力に貢献する。
8. 平等とダイバーシティ	個性の違いを敏感に感じ取り、尊重している。職場環境内での多様性と差違に対する意識を高める。 機関における平等性と多様性に関する要求事項を理解する。	教育/研究における多様性と差違の真価を認めて働きかける。	多様性と差違に対処する時は個人的な行動の模範として行動する。 多様性と差違を積極的に利用して、研究のプロジェクトと成果を充実させる。	現場でも国内外でも手本を示す。 学科/研究機関の方針と実行内容の具体化を支援する。

1. コミュニケーションの方法	<p>公式の場でも非公式の場でもあらゆるテクニックを駆使して、首尾一貫した議論を展開し、さまざまな聴衆に対して考えを明確に述べる。(E2)*</p> <p>知識の交換や同僚との討論(時には専門/研究分野の間で行う)に積極的に参加する。</p> <p>弁論能力を高く評価する。</p>	<p>自信を持って活動内容を発表する。</p> <p>他者を説得し、適切な質問をタイミングよく投げかけることができる*。</p> <p>専門家ではないさまざまな聴衆に対して効果的に研究内容を伝えることができる。</p> <p>学術的環境外からのアイデアの価値を認識し、必要に応じてそのアイデアを具体化する。学際的な知識の交換に積極的に参加する。</p>	<p>説得力を駆使して複雑な内容を分かりやすく伝える。</p> <p>鋭く切り込むインタビューテクニックを示す。</p> <p>公的研究機関、企業、産業界、専門家、研究利用者などとの知識交換に積極的に参加する。</p>	<p>さまざまなアプローチを行い、専門職の同僚/専門家、専門家ではない聴衆を感動させるような研究発表を行う。</p> <p>完璧に仕上げた議論を早急に提示する。</p>
2. コミュニケーション・メディア	<p>インタラクティブテクノロジーを用いた対面式の交流や、テキスト媒体、視覚媒体など、有用性/必要に応じてさまざまなコミュニケーション手段を利用し、能力を養う。</p> <p>研究者としてウェブ上で存在感がある。</p> <p>視聴覚器材を効果的に使用してプレゼンを行う。</p>	<p>自信を持って対面式の交流を行う。対話型コミュニケーション技術を使用して、ネットワークの構築、情報/データの共有、研究の存在感の促進を行う。</p> <p>局所的に利用可能な媒体に関与する。</p> <p>必要に応じてさまざまな視聴覚器材を使用し、複雑な内容を分かりやすくする。</p> <p>さらなる技術を自主的に習得する。</p>	<p>自信を持って電子的リソースを使用する。</p> <p>仮想研究環境を構築・誘導する。</p> <p>研究の共同作業や研究内容の伝達を「仮想」で行う。</p> <p>国内外の媒体やウェブ媒体を利用する。</p> <p>媒体の使用に関して、継続的に自己改善を追求する。他者の教育・助言・指導を行う。</p>	<p>対話型の通信技術について、知識と能力を高度なレベルに維持する。</p> <p>国際媒体を意識し関与する。</p> <p>重要課題に関して国際的存在感がある、研究機関/学問分野のリーダーになる。</p>
3. 出版	<p>研究結果の出版プロセスと学界での展開プロセスを理解する。(B7)*</p> <p>出版可能な内容を、印刷形式や電子形式やその他の形式で作成する。</p> <p>出版物の公開媒体の範囲と多様性に対し意識を高めている。</p>	<p>研究がどのように評価され、印刷形式や電子形式やその他の形式で出版されているのかを把握する。</p> <p>出版可能な内容を高水準で作成する。他者との共著/共同研究となる場合がある。</p> <p>さまざまな研究公開媒体、専門公開媒体、公共の公開媒体において、研究を広める。</p>	<p>定期的に研究発表を行い、国内発表の編集に関与する(編集者になる場合もある)。</p> <p>学術的・非学術的公開媒体において、最も名誉ある出版物となることを目指す。</p> <p>共同研究のパートナーおよびまたは学際的研究のパートナーを積極的に求める。共著の場合は主著者になる。</p> <p>経験の少ない研究者が出版できるように支援する。</p> <p>出版物の査読を自主的に行う。</p>	<p>さまざまな媒体での積極的な公開を選択する(応答型の寄稿など)。国際的な専門誌やその他の普及媒体の編集に関与する(または編集者になる)。</p> <p>適切な専門誌/公開媒体にターゲットを絞って、公開された質の高い研究内容の広範な実績を獲得する。</p> <p>公開された研究内容に関して、国際的にも世間からも高い評価を受ける。</p> <p>影響力のある編集委員を務める。</p>

1. 教育

学部レベルの教育に貢献する。学部のプロジェクトの監督を支援する。研究会議（セミナー、ワークショップ、カンファレンスなど）に参加する。研究が教育に影響を与える/相互作用する方法に対して高い意識を持つ。

自己の教育のスタイルやテクニックに対して高い意識を持つ。学生の知識の評価とプロジェクトの監督に関与する。学生の研究能力の育成を支援する。大学院生の研究プロジェクトを自主的に共同監督する。研究を別の教育的成果に転換する意義を認識する。自己の研究が教育方法に影響を与える方法を追求する。研究会議（セミナー、ワークショップ、カンファレンスなど）を主催する。

自己のアプローチを改良し、教育のスタイルやテクニックの幅広いレパートリーを開発する。その学部の教育・学習プログラムに貢献し管理を行い、自己の分野のカリキュラムの開発に貢献する。教育—学習—研究という連携態勢との交流を高く評価する。経験の少ない研究者の教育・助言・指導・管理を行う。監督経験を養う。大学院研究員を監督する。博士号レベルの外部試験官を務める。新しい大学院研究員に魅力を感じさせる。

教育プログラムとその教育・品質保証手順について指導する。研究に通じる教育開発の機会を追求する。研究と教育を結びつける文化を積極的に奨励・推進する。大学院研究員の監督者を指導する。

2. パブリック・エンゲージメント

アイデアを創出し、内外で機会を見いだす。自己の研究機関内または外部にて、革新的な方法でアイデアを展開する。研究結果の商業利用プロセスを理解する。(B7)* ビジネス/商業的状況における人間関係の構築という学術的環境の価値を学ぶ。

企業色の強いアイデアの飛躍に対して高い意欲と献身を示す。研究—企業の関係性の意義を高く評価する。さまざまな環境を理解し、必要に応じて、社会内での知識交換を高く評価し貢献する**。商業化、起業家精神/社内企業制度、社会事業に対する意識を高める。

さまざまな環境にいる他者が創造的に革新的な方法で問題を解決できるよう導く。強力なネットワークを構築し、知識の交換を通じてリソースを獲得し変化に影響を与える。研究を充実させ情報と専門知識を内外のさまざまな聴衆に伝える真のベンチャーに、アイデアを変換する。研究の新しい成果や応用について、商業的/社会的利益を求められる可能性を認識する。ビジネス/商業的状況における関係性の構築が非常に巧みである。商業的・社会的に意識している。経験の少ない研究者の教育・助言・指導を行う。

ビジネス/商業的状況において広範囲に及ぶ関係性を刺激・創出・構築する。企業と知識交換に関して高い評判を確立する。企業と関係している他者に対し、戦略的なリーダーシップと支援を提供する。研究者ではない専門家/非研究産業からの、新しい技術および/または新しいアイデアの導入に長けている。企業の擁護者としての役割を担う。

4. 政策

関連する方針決定プロセスを理解し、方針に適した形式で研究結果を発表する。方針を分析し、方針が置かれている広範な背景を理解する。

研究に対する方針決定の重要性、および方針決定に対する研究の重要性を認識・理解・評価する。一般大衆、方針決定者、政府、その他の主要研究機関との対話に参加する。方針とその目的適合性の影響を評価する。

方針の発展または強化を示すことのできる研究を生み出す。経験の少ない研究者の教育・助言・指導を行う。

学術的環境と方針決定プロセスの関係を理解・構築し、適切なつながりを作って方針決定に影響を与える。研究に関する方針の影響について、全スタッフに助言と情報を与える。

さまざまなメカニズムを通じて、研究知識を方針決定プロセスに盛り込む能力がある。主要な方針決定者と直接協働することで、方針に影響を与えることができる。

5. 社会・文化

研究が広範な社会に与える影響、および社会・環境・文化が研究に与える影響について、意識を高める。企業の社会的責任の概念を理解する。

研究が社会・環境・文化に与える可能性のある影響を、認識・理解・高く評価する。コミュニティおよび/または関係者との対話に参加する。企業の社会的責任をより深く理解し、社内での自己の役割が及ぼす影響を認める。政治を意識する。

研究のプロジェクトと成果により社会と文化を充実させる方法を積極的に追求する。企業の社会的責任について、経験の浅い研究者に教育・助言・指導を行う。政治に関して明敏である。

現場でも国内外でも手本を示す。学科/研究機関の方針と実行内容の具体化を支援する。方針を利用して利益を得る。企業の社会的責任において、スタッフに期待される事柄を設定する。

6. グローバル・シティズンシップ

自己の研究を行う背景に対し、国内外のレベルで幅広い理解を示す。(B1)*

自己と他者の研究がグローバル市民として及ぼす影響を認識する。国際的な交流やネットワークを構築する。他の文化に関わり合い理解する。

模範と期待される事柄を設定する。学問/研究分野および/または研究機関における影響問題を先導する。国際的な研究問題に関して、同僚、研究者、スタッフを教育・助言・訓練・指導できる。

世界的な影響力を持っている。先導する。模範と課題を設定し、国内外の規模で方針に影響を与える。